

福岡県産ブランド「はかた地どり」の2017年度の出荷数が55万6千羽に上り、九州の地鶏市場で12年ぶりに首位に返り咲いた。全国でも3位の快挙。長年のライバル、宮崎県産「みやざき地頭鶏」に水をあけられていたが、福岡県の生産支援を追い風に「九州地鶏競争」を制した。

独立行政法人「家畜改良センター兵庫牧場」が15日、都道府県別の地鶏の生産利用状況を公表した。地鶏は1999年以来、国内在来種の血筋が濃く過密飼育しないなどの規格が決まっている。現在、35道府県で39銘柄、うち九州6県で8銘柄があり、宮崎と福岡が出荷数でしのぎを削ってきた。

統計調査を開始した01年度から5年間は福岡が九州一だったが、06年度に宮崎に首位を奪われて以来、2位止まりだった。17年度、宮崎の出荷数は前年度比16%減の50万4千羽と落ちこむ一方、福岡は同12%増の55万6千羽に伸長。全国でも5位から3位に躍進した。

## 12年ぶり宮崎抜く

はかた地どりは福岡県産のシャモを父系に県が87年に開発。程良い歯応えとうま味が人気で、農事組合法人「福栄組合」（同県久留米市）直営・委託の11農場で生産している。県は九州一を目指して生産設備費などを補助。法人は東京・銀座の飲食店と提携してイメージ向上や販路拡大につなげた。昨年には福岡市・中洲に直営店を開いた。県畜産課は「九州一は生産者の励みになる。首位を維持できるように支援を続けた」と意気込んでいる。（大坪拓也）

# 九州地鶏競争、福岡首位奪還